



宗祖 法然上人 800回大遠忌

通信



法然上人と今、すべてのいのち

平成23年4月25日(月)～5月1日(日)
総本山 永観堂禅林寺

「宗祖法然上人800回大遠忌」記念事業

舞台づくりは着々と進み、法然さんへのマインドも高まる！

「法然上人と今、すべてのいのち」をテーマに繰り広げられている「宗祖法然上人800回大遠忌」記念事業、あと三年とせまり、その舞台づくりは着々と進んでいます。2006年に始まった阿弥陀堂外部の修復工事は予定通り完了し、内部の荘厳の彩色復元も着実な進捗状況で進み、元の鮮やかな色彩を取り戻すことが期待されています。また、御影堂の瓦葺き替えは、昨年十二月に足場が生まれ、今年にはいり本格的な葺き替え工事が進められています。四万四千枚の瓦がすべて葺き終わるのは今年十月。阿弥陀堂とあいまって美しい壺の波を見せ、荘厳な景観を創ります。一方、ソフト面においては、お待ち受け特別法要は三十七か寺を巡教し、法然さんへのマインドは高まり、「法然上人を歩く旅」は姫路まで到達し、全行程の半ばに達しようとしています。第二回「法然上人への絵手紙募集」は力作が全国から寄せられ、応募総数百十三点のなかから優秀作十四点選ばれました。また、今年、岐阜で記念大会が十月三日、岐阜羽島文化センターで催されるなど、大きなうねりとなって御遠忌に向かっています。

四百年ぶりに蘇る阿弥陀堂

永観堂の本堂、阿弥陀堂（京都府指定文化財）は慶長二年（一五九七）に大阪・四天王寺の曼荼羅堂として建てられ、十年後の慶長十二年（一六〇七）に永観堂に移築されました。移築当時には、阿



外部の修復を完了した阿弥陀堂

弥陀堂の荘厳として極楽浄土を思わせる彩色が堂の内外全体に施されてきたといわれます。二〇〇六年初頭の調査によ

り、内陣の柱の上部から「ぬし やぎゅう 慶長十二年」と判読できる墨書が見られました。また、堂内の鴨居には、

銀木瓜花久留子・切竹久留子文（かんとつこうはなくなるす・きりたけくるすもん）と呼ばれる十字架をモチーフにした幾何学模様が描かれており、塗装の状態からこの模様は曼荼羅堂時代の装飾と考えられます。他にも牡丹唐草模様、瑞鳥、龍や唐草、亀甲文などいろいろな彩色が施されていたことが明らかになりました。この調査結果に基づき、法然上人800回大遠忌記念事業として、阿弥陀堂の彩色を復元しています。すでに建物自体の保存修理工事は、完了し、内部の調査、彩色復元が川面美術研究所の協力により行われています。

九十年ぶりに葺替られる御影堂

永観堂でいちばん大きな堂宇である御影堂は、大正二年（一九一三）に上棟した総檜造りの建物で、宗祖法然上人をお祀りしています。永観堂では最も新しい建物ですが、築後九十年余りを経過し、近年雨漏りなどを発生しており、屋根瓦の補修が必要となっています。

今回、法然上人八〇〇回大遠忌の記念事業として、御影堂の屋根瓦の総吹替えを行います。

阿弥陀佛の四十八願に準じ四十八本の丸柱に支えられる堂の広さは、間口十二間・奥行十二間。その屋根の総面積は一四三二・九四平方米、使用される瓦は



葺き替えられる大殿の大屋根

全部で約四万四千枚。昨年十二月に足場が生まれ、素屋根に覆われ、瓦をおろす作業から始まり、今年に入り本格的な葺き耐震工法で工事が始まっています。なお、竣工は本年十月の予定です。

順調な足取り、法然上人の旅

二〇〇六年十月九日、岡山県の誕生寺を出発して、法然上人が母さんと別れたと伝えられる「仰叡の灯」という遺跡を顕彰し、津山まで歩いた第一回を皮切りに、出雲街道を東進し勝間田、林野、土居、万能峠を越えて播磨（兵庫県）に入り上月、作用、三日月と歩きました。

三日月では当山の寺院「福仙寺」に参拝、さらに新宮から南下して龍野に入り、本龍野の当山の寺院「普音寺」にお参りして、太子町を経て第七回目にして姫路に到達しました。距離にして百十八キロ、全行程二百七十キロの半分近くまでできました。さらに山陽道を東進し、西宮から西国街道を通り京都に向かいます。

- 第一回 誕生寺・津山 十六、五キロ
- 第二回 津山・林野 十七キロ
- 第三回 林野・美作土居 十五キロ
- 第四回 美作土居・播磨徳久 十八キロ
- 第五回 播磨徳久・千本 十六キロ
- 第六回 千本・本龍野 十六、五キロ
- 第七回 本龍野・姫路 十九キロ

今回、歩く旅では法然上人比叡登山の折、観覧がもたせた手紙「進上大聖文殊菩薩一軀」の故事にちなんで、文殊菩薩像とともに比叡をめざして歩いていきます。



今年も岐阜大会を実施

宗祖法然上人800回大遠忌記念大会「法然上人と今、すべてのいのち」は、本年十月三日（金）岐阜羽島文化センターで開催されます。昨年春には兵庫大会、秋に東京大会と開催され、多くの檀信徒に感動をあたえたあのドラマを岐阜に持ち込み、岐阜の檀信徒の方にお届けしたいと願っています。岐阜大会の細部はまだ決っていませんが、大枠は兵庫県大会、東京大会を踏襲するものと思われまふ。想定される展開は、永観堂の梵鐘を合図に司会者が登場し、開会を告げると記念大会が始まります。

まず、鬼頭誠英宗務総長の挨拶で口火が切られると、最初の法話が始まり、十五分間語られます。続いてもう一席法話（十五分）を聞いていただきます。終わると五分間の休憩をとります。つぎに、管長猥下と法事部による特別法要を厳修いたします。続いて管長猥下の御親教があり、第一部を終わります。

十五分の休憩後、第二部が始まります。第二部は、古屋和子さんの琵琶で奏でる「法然上人物語」です。四十五分間たっぷりと法然上人の一代記を語っていただきます。語り終えれば、会場全体で「一枚起請文」を合唱。

最後に、岐阜県宗務支所長の閉会の挨拶で幕を閉じます。

伝道の輪が広がるお持ち受け法要

法然上人の教えを胸に、念佛する喜びを未来に伝えようと始まった特別法要・伝道、いわゆるお持ち受け法要は、二〇〇六年六月四日、神戸市の阿弥陀寺を皮切りに、七月と十月には京都府下で、二〇〇七年一月には岐阜・愛知で、四月には福井県・京都府下で、七月には北海道で、十月には京都府下で、そして二〇〇八年一月には京都府下でと次々と念佛の輪が広がり、派内の寺院三十七か寺に及びました。「すばらしい法要だった」良いお話を聞かせていただいた」という声を各所からいただいています。全国百か寺をめざしてまいります。ご希望の寺院はお知らせください。

これまでに実施された御寺院

- 二〇〇六年
 - 六月四日 阿弥陀寺
 - 七月八日 末慶寺・休務寺・積善寺
 - 七月九日 常楽寺・真如寺
 - 十月十三日 極楽寺
 - 十月十四日 法音寺・常林院
 - 十月十五日 地藏院・浄心寺
- 二〇〇七年
 - 一月十九日 来昌寺
 - 一月二十日 立政寺・善光寺
 - 一月二十一日 寿琳寺・玉泉院
 - 四月十三日 安養寺
 - 四月十四日 安養寺・法榮寺
 - 四月十五日 竹林寺・安阿弥寺
 - 七月六日 天性寺
 - 七月七日 沼貝寺・善来寺・善導寺
 - 七月八日 法然寺・善光寺
 - 十月十三日 安井念佛寺・西寺・寶樹寺
 - 十月十四日 太秦常楽寺・山ノ内念佛寺
- 二〇〇八年
 - 一月十八日 専念寺
 - 一月十九日 若王寺・西福寺
 - 一月二十日 稱名寺・中堂寺

広めよう！一枚起請文の写経

法然上人が一二二二年（建暦二）、門弟源智に浄土往生の要義を一枚の紙に和文で記されたものが一枚起請文です。

口称念佛こそ、本願の念佛にほかならぬことを述べ、また無知なものと同じように、自身を一文不知の愚鈍の身におとし、専ら念佛すべきことを説いています。短い文章ですが、専修念佛の要旨が簡潔に説かれています。

この短い文章を一字ずつ写し取って、その精神を心に刻みましよう。「書写すれば、よく大願を成就す」といわれます。わずらわしい現実から離れてただひとり机に向かつて一心に写すとき、すぐには理解できなくても、やがて心の底深く沈んで、深い信仰へと導いてくれます。写経して本山へ納めていただければ、すべて回向して御影堂の納経所に一年間祀られます。

授戒会受者募集

平成二十一年五月二日～六日

この五日間はすべて休日となりますので、お勤めの方も受けやすく、ひとりでも多くの方にと願っています。

美しい心を綴る法然上人への絵手紙

法然上人さまに手紙を出すという仮想のなかで、
未来への想いを語っていたという趣旨で、第一
回「法然上人への絵手紙」を募集したところ、全国か
ら百通を超える力作が寄せられました。

二月一日、事務局文化部長を委員長に当派役職員
十名からなる選考委員会が開催され、法然上人への
メッセージの内容・独自性、メッセージと絵の整合
性などの評価基準に照らして、入選作十四点を選ば
れました。入選者には、賞品の発送をもって発表に
代えさせていただきます。なお、応募作品は永観
堂において、三月一日から五月末日まで展示してい
ますので、ぜひ御覧ください。

今回が第一回目ですが、以下の予定で募集します
ので、どんどん応募してください。
第二回 平成二十年十月～十二月
第三回 平成二十一年十月～十二月
第四回 平成二十二年十月～十二月

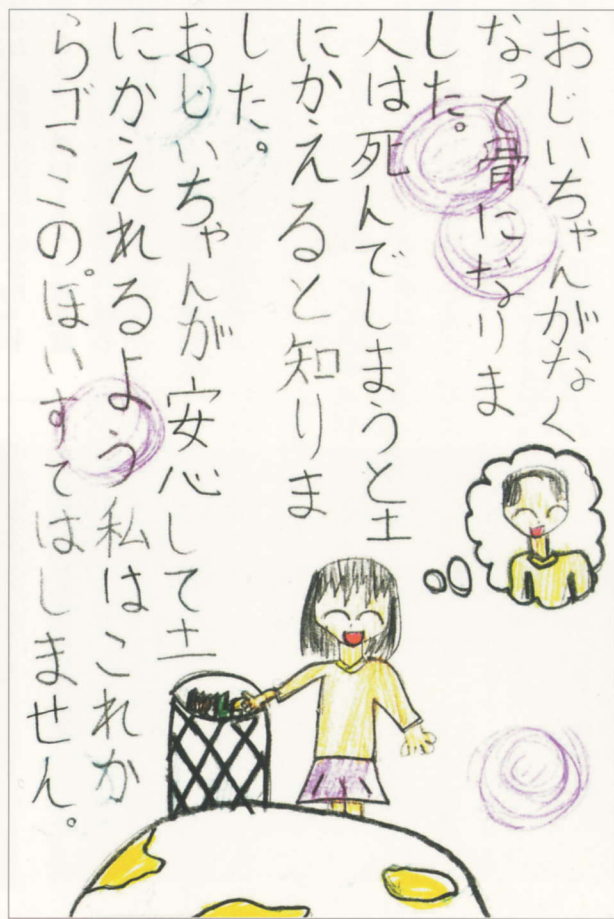
発行所
宗祖法然上人800回
大遠忌記念事業事務局
千六〇六一八四四五
京都市左京区永観堂町四八
電話
〇七五七六一〇〇〇七
FAX
〇七五七七一四二四三
Eメール zeninji
@eikando.or.jp
二〇〇八年三月二十五日発行



優秀作品 京都府・山本悦子様



優秀作品 大阪府・植田祥子様



最優秀作品 京都府・太田ゆい様



優秀作品 静岡県・佐藤樂様

肉親の死を通じて、人は土に還ること、肉親の還った土を汚さないという思いが幼
い言葉と絵で綴られています。地球環境保全を意識した作ではありますが、宗教観、
倫理観が忘れ去られようとしている昨今、幼いときからこのような感性を育むこと
が信仰への出発点であることを改めて思わせる作品です。

- 佳作 (順不同)
- 林 伸朗様 (東京都)
 - 村木 通輝様 (東京都)
 - 増田誠一郎様 (東京都)
 - 白石袈裟夫様 (東京都)
 - 本田しおん様 (東京都)
 - 吉田 雅子様 (滋賀県)
 - 五島千鶴栄様 (京都府)
 - 石田 一子様 (京都府)
 - 勝間田晃一様 (山口県)
 - 石見 秀治様 (大分県)